

グローバルCBオープン・ 円コース

追加型投信／海外／債券

第89期末（2019年5月20日）	
基準価額	6,969円
純資産総額	3,394百万円
第84期～第89期	
騰落率	△0.1%
分配金合計	60円

第84期 2018年12月19日決算 第85期 2019年1月21日決算
 第86期 2019年2月19日決算 第87期 2019年3月19日決算
 第88期 2019年4月19日決算 第89期 2019年5月20日決算
 作成対象期間（2018年11月20日～2019年5月20日）

*騰落率は収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

◆運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

◆当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）については、以下の手順で閲覧およびダウンロードすることができます。

<閲覧方法>

<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→
 ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

受益者の皆様へ

毎々、格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

さて「グローバルCBオープン・円コース」は、このたび、第84期から第89期の決算を行いました。

当ファンドは、主として円建て外国投資信託証券への投資を通じて、新興国を含む世界の企業が発行する転換社債（CB）等を実質的な投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

- 口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 運用報告書についてのお問い合わせ
フリーダイヤル 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）

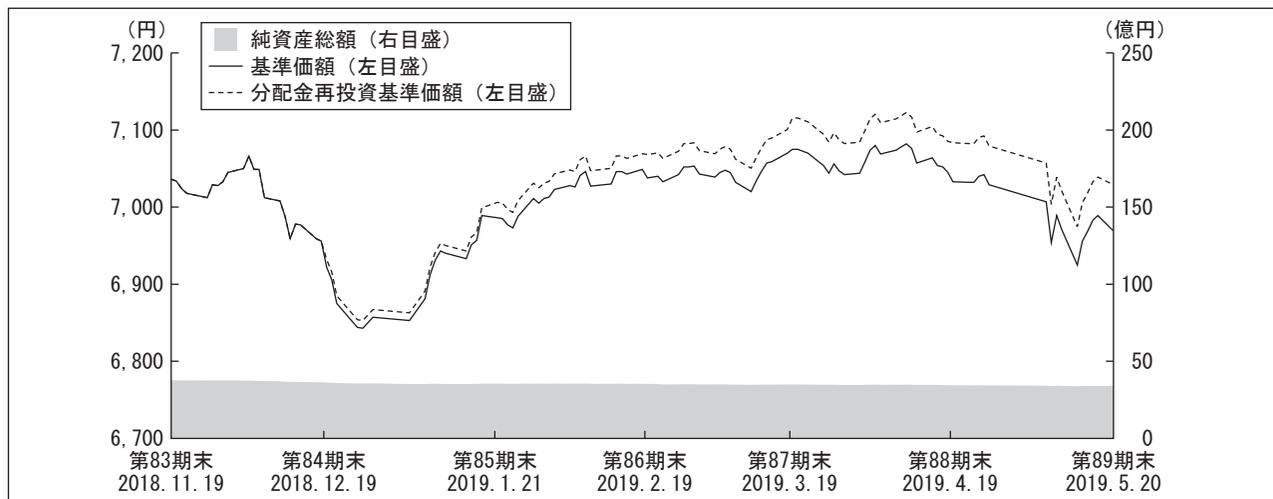


三井住友DSアセットマネジメント

（旧：大和住銀投信投資顧問）
 〒105-6228 東京都港区愛宕2-5-1
<https://www.smd-am.co.jp>

運用経過

【基準価額等の推移】



*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

*分配金再投資基準価額は、作成期首の基準価額を基準に算出しております。

*分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

第84期首：7,036円

第89期末：6,969円（作成対象期間における期中分配金合計額 60円）

騰落率：△0.1%（分配金再投資ベース）

【基準価額の主な変動要因】

当ファンドは、Global Convertible Bond Fund JPY Classへの投資を通じて、新興国を含む世界の企業が発行する転換社債（CB）等を実質的な投資対象としました。

（上昇要因）

インカム収入がプラスに貢献したことが要因となりました。また、CBの価格上昇がプラスに寄与したことも要因となりました。

（下落要因）

米ドルの円への為替ヘッジに伴うコストが要因となりました。

【1万口当りの費用明細】

項目	第84期～第89期		項目の概要
	2018年11月20日～2019年5月20日		
	金額	比率	
信託報酬	37円	0.525%	信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率 作成期中の平均基準価額は7,007円です。
(投信会社)	(13)	(0.188)	ファンドの運用等の対価
(販売会社)	(23)	(0.323)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(1)	(0.013)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
その他費用	0	0.005	その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.005)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(0)	(0.000)	信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合計	37	0.530	

* 「比率」欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

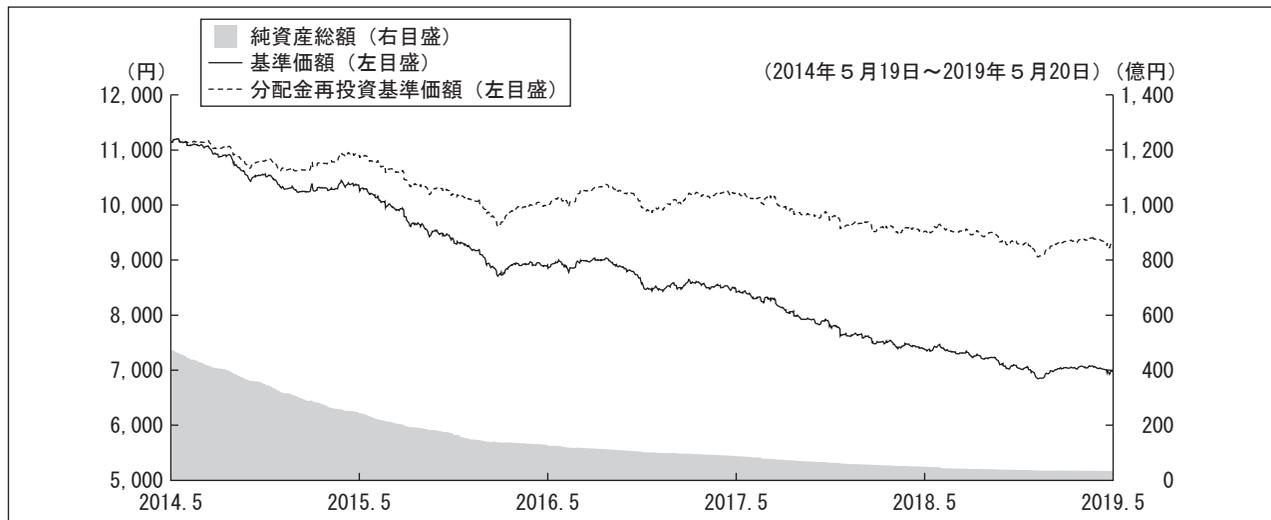
* 作成期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託受益証券が支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

* 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

* 各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

【最近5年間の基準価額等の推移】



*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

*分配金再投資基準価額は、2014年5月19日の基準価額を基準に算出しております。

*分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2014年5月19日 期初	2015年5月19日 決算日	2016年5月19日 決算日	2017年5月19日 決算日	2018年5月21日 決算日	2019年5月20日 決算日
基準価額 (円)	11,149	10,292	8,853	8,419	7,369	6,969
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	600	600	600	520	220
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 2.3	△ 8.3	1.9	△ 6.5	△ 2.5
純資産総額 (百万円)	47,434	24,444	12,621	8,743	4,915	3,394

【投資環境】

当作成期のグローバルCB市場は、プラスのリターンとなりました。2018年末にかけてはグローバルな経済成長への不安から株式市場をはじめとしたリスク資産は下落し、CB市場も軟調となりました。しかし、2019年になると、FRB（米連邦準備制度理事会）のハト派的な姿勢への転換がリスク資産の下支えになるとの見方が広まり、企業業績も良好となるなかで大幅な反発が見られました。作成期末にかけては米中の貿易摩擦の話題が再び浮上し、やや調整は見られたものの、作成期を通じてCB市場は主要金利の低下と株式市場の上昇による恩恵を受け、堅調に推移しました。

国内短期金融市場では、作成期初 -0.32% 近辺でスタートした国庫短期証券3ヵ月物の利回りは、作成期を通じて $-0.15\% \sim -0.30\%$ での動きに終始し、 -0.15% 近辺で作成期末を迎えました。

【ポートフォリオ】

■グローバルCBオープン・円コース

主要投資対象であるGlobal Convertible Bond Fund JPY Classを作成期を通じて高位に組み入れ、作成期末の投資信託証券組入比率は97.4%としました。

■Global Convertible Bond Fund JPY Class

ポートフォリオでは投資適格の格付けを維持しながら、一定程度の利回りと株式への感応度を得られるようなバランスを重視した投資を続けました。

個別銘柄では、がん検出剤メーカーのイグザクト・サイエンシズの保有がプラスに寄与しました。主力検出剤の出荷量が伸び、直近で発表された売上高が予想を上回ったほか、同検出剤が今後幅広く普及するよう申請がなされたことなどが好感され、CB価格が上昇しました。一方、電気自動車メーカーであるテスラがマイナスに作用しました。直近四半期の出荷量が想定を下回ったことにより、売上高が市場予想に届かなかったことなどが材料視され、CB価格は下落基調となりました。

■キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

安全性と流動性を考慮し、短期の国債・政府保証債を中心とした運用を行いました。年限に関しては、残存6ヵ月以内の短期の国債・政府保証債を中心とした運用を継続しました。

【ベンチマークとの差異】

当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

【分配金】

収益分配金は、分配可能額、基準価額水準等を勘案し、第84期～第89期の各期において10円とさせていただきます。(1万口当り税込み)

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行います。

■分配原資の内訳

(1万口当り・税引前)

項目	第84期	第85期	第86期	第87期	第88期	第89期
	2018年11月20日 ～2018年12月19日	2018年12月20日 ～2019年1月21日	2019年1月22日 ～2019年2月19日	2019年2月20日 ～2019年3月19日	2019年3月20日 ～2019年4月19日	2019年4月20日 ～2019年5月20日
当期分配金 (円)	10	10	10	10	10	10
(対基準価額比率) (%)	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14
当期の収益 (円)	10	—	—	—	—	—
当期の収益以外 (円)	—	10	10	10	10	10
翌期繰越分配対象額 (円)	2,523	2,513	2,503	2,493	2,483	2,473

※円未満を切り捨てしているため、「当期分配金」は「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計額と一致しない場合があります。

※当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

■グローバルCBオープン・円コース

引き続き、運用の基本方針に従い、主として円建て外国投資信託証券への投資を通じて、新興国を含む世界の企業が発行する転換社債(CB)等を実質的な投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

■Global Convertible Bond Fund JPY Class

低インフレ率や主要中央銀行のハト派寄りの姿勢、さらに上向きなグローバル成長などが支援材料となり、株式市場は目先概ね良好なパフォーマンスを維持し、CB市場の追い風になると見えています。米中貿易摩擦関連の話題などから市場変動性は高止まりする可能性があるものの、CBはリターンの下振れを抑制することが期待できるため、価格変動性が高まる市場環境下に適した資産クラスであると考えています。今後も、格付け、利回り、株式への感応度についてバランスの取れたポートフォリオを維持していく方針です。

■キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

日本銀行は2018年7月の金融政策決定会合において、現行の金融緩和政策を粘り強く続けていくため、政策金利のフォワードガイダンスを導入しました。したがって当分の間、市場利回りは低い水準での推移が見込まれます。引き続き、安全性と流動性をもっとも重視したスタンスでの運用を継続し、短期の国債・政府保証債を中心とした運用を行っていきます。日本銀行による金融緩和政策が続くため、短期金利の上昇リスクは限定的と予想します。ファンドの平均残存年限については2～4ヵ月程度を目安に短めを基本とする方針です。

お知らせ

大和住銀投信投資顧問株式会社は、2019年4月1日に三井住友アセットマネジメント株式会社と合併し、三井住友DSアセットマネジメント株式会社となりました。

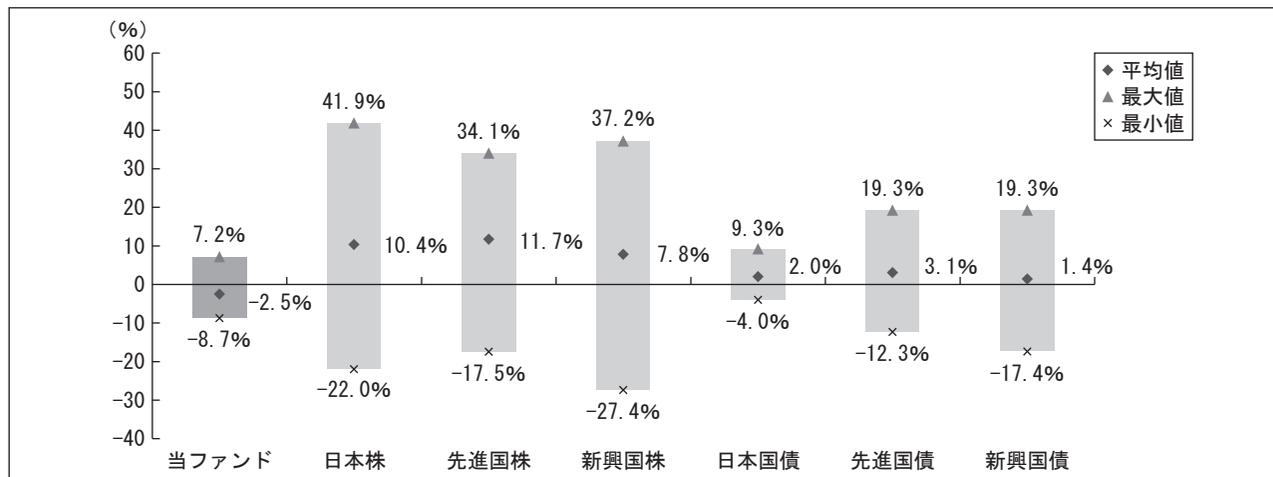
委託会社の合併に伴い、ファンドの委託者の商号ならびに公告の方法を変更することに伴う所要の約款変更を行いました。(2019年4月1日付)

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2011年11月30日～2021年11月19日（約10年）	
運用方針	主として円建て外国投資信託証券への投資を通じて、新興国を含む世界の企業が発行する転換社債（CB）等を実質的な投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。なお、親投資信託であるキャッシュ・マネジメント・マザーファンド受益証券へも投資を行います。	
主要投資対象	当ファンド	<ul style="list-style-type: none"> ・Global Convertible Bond Fund JPY Class受益証券 ・キャッシュ・マネジメント・マザーファンド受益証券
	Global Convertible Bond Fund JPY Class	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の転換社債（CB） ・為替取引の活用
	キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	本邦通貨建て公社債および短期金融商品等
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。 ・外国投資信託証券への投資比率は、原則として高位を保ちます。 ・銘柄の選定に当たっては、市場平均よりも相対的に利回りの高い銘柄を中心に、企業の信用力分析や株式価値等を総合的に勘案して銘柄を選定します。 ・原則として保有する外貨建資産に対し、米ドル売り、円買いの為替取引を行う外国投資信託証券に投資します。 	
分配方針	<p>毎月19日（休業日の場合は、翌営業日）の決算日に、収益分配金額は経費控除後の利子・配当収益および売買益（評価損益も含まれます。）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないことがあります。</p> <p>*分配金自動再投資型の場合、分配金は税金を差し引いた後自動的に無手数料で再投資されます。</p>	

【当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較】

(2014年5月～2019年4月)



●上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

*全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

*騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

<各資産クラスの指数について>

資産クラス	指数名	権利者
日本株	TOPIX (配当込み)	株式会社東京証券取引所
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)	MSCI Inc.
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)	MSCI Inc.
日本国債	NOMURA-BPI国債	野村証券株式会社
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	FTSE Fixed Income LLC
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド (円ベース)	J.P.Morgan Securities LLC

(注) 上記指数に関する著作権等の知的財産権およびその他一切の権利は、各権利者に帰属します。各権利者は、当ファンドの運用に関して一切の責任を負いません。

当該投資信託のデータ

《当該投資信託の組入資産の内容》

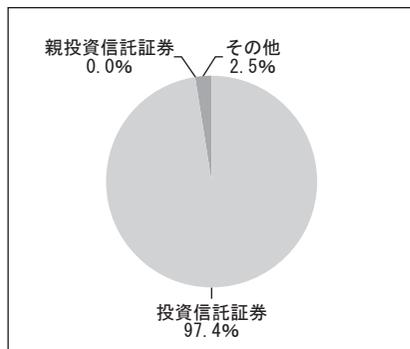
【組入ファンド】

	第89期末（2019年5月20日）
	組入比率
Global Convertible Bond Fund JPY Class	97.4%
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	0.0%

*組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

【資産別配分】

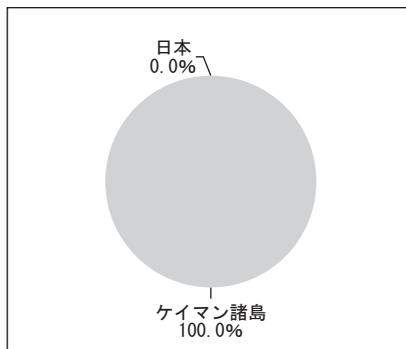
(2019年5月20日現在)



*純資産総額に対する評価額の割合

【国別配分】

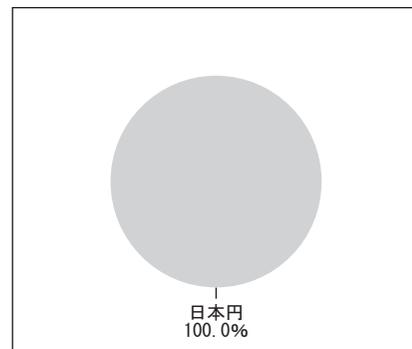
(2019年5月20日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【通貨別配分】

(2019年5月20日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【純資産等】

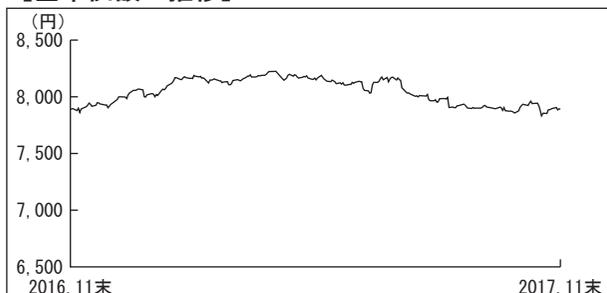
項目	第84期末	第85期末	第86期末	第87期末	第88期末	第89期末
	2018年12月19日	2019年1月21日	2019年2月19日	2019年3月19日	2019年4月19日	2019年5月20日
純資産総額	3,617,031,749円	3,546,742,879円	3,536,086,243円	3,492,675,442円	3,442,742,225円	3,394,519,008円
受益権総口数	5,225,639,922口	5,077,151,150口	5,024,046,752口	4,936,963,101口	4,895,311,174口	4,870,826,559口
1万口当り基準価額	6,922円	6,986円	7,038円	7,075円	7,033円	6,969円

*当作成期間中における追加設定元本額は8,666,965円、同解約元本額は508,875,884円です。

《組入ファンドの概要》

■Global Convertible Bond Fund JPY Class

【基準価額の推移】



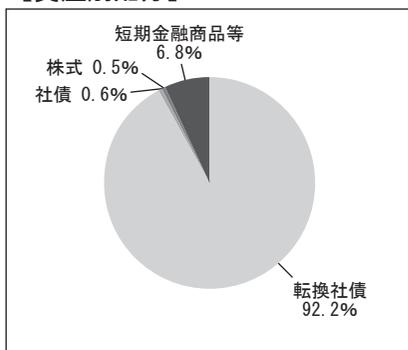
*上記グラフは、基準価額に分配金を分配時に再投資したものと表示しております。

Global Convertible Bond Fund

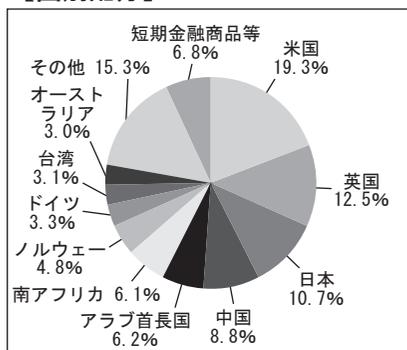
【1万口当りの費用明細】

費用については、開示されていないため、掲載しておりません。

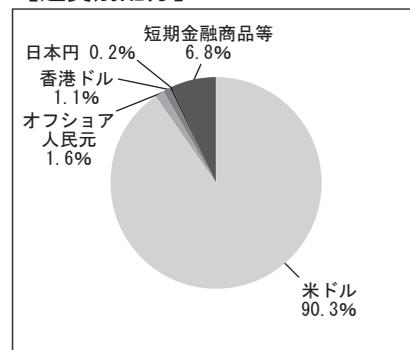
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



【組入上位銘柄】

銘柄名	国名	クーポン	償還日	業種名	比率
1 AABAR INVESTMENTS PJSC	アラブ首長国	0.500%	2020/3/27	銀行	5.0%
2 J SAINSBURY PLC	英国	2.875%	2021/7/30	食品・生活必需品小売り	4.9%
3 SHIP FINANCE INTL LTD	ノルウェー	5.750%	2021/10/15	エネルギー	4.0%
4 DISH NETWORK CORP	米国	3.375%	2026/8/15	メディア	3.8%
5 HELICAL BAR JERSEY LTD	英国	4.000%	2019/6/17	不動産	3.3%
6 PALADIN ENERGY LTD	オーストラリア	7.000%	2020/3/31	エネルギー	3.0%
7 PREMIER OIL FINANCE (JER)	英国	2.500%	2022/5/31	エネルギー	2.9%
8 TESLA INC	米国	2.375%	2022/3/15	自動車・自動車部品	2.6%
9 ICHOR COAL NV	南アフリカ	5.000%	2019/6/7	エネルギー	2.6%
10 FIREEYE INC	米国	1.625%	2035/6/1	ソフトウェア・サービス	2.2%

(組入銘柄数 85銘柄)

※資産別配分、国別配分、通貨別配分、組入上位銘柄は2017年11月末現在のGlobal Convertible Bond Fundの純資産総額に対する比率です。

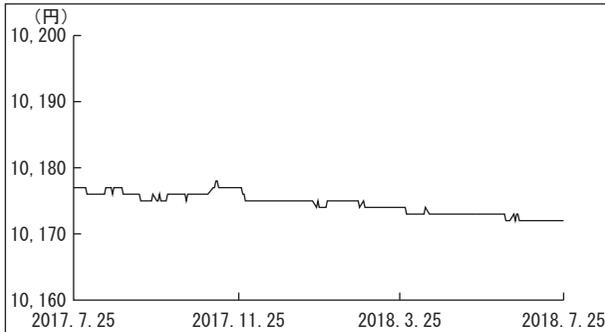
※組入上位銘柄における業種名は世界産業分類 (GICS) です。

※当ファンドの運用報告書作成時点において、入手可能な直前計算期間のGlobal Convertible Bond Fundの情報を記載しております。

※詳細な情報等につきましては、運用報告書 (全体版) に記載しております。

※上記はブルーベイ・アセット・マネジメント・エルエルピーから提供されたデータに基づき作成しております。

■キャッシュ・マネジメント・マザーファンド 【基準価額の推移】



【1万口当りの費用明細】

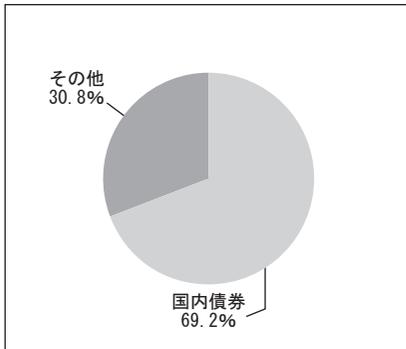
(2017年7月26日～2018年7月25日)

項目	金額
その他費用 (その他)	0円 (0)
合計	0

*費用項目については、2ページの項目の概要をご参照ください。
*期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
*円未満は四捨五入しています。

【資産別配分】

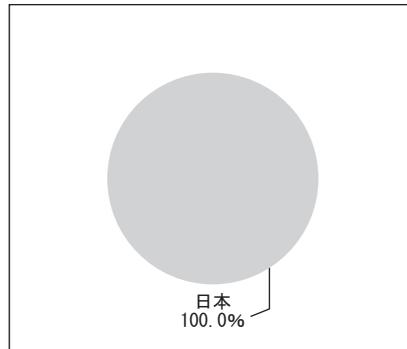
(2018年7月25日現在)



*純資産総額に対する評価額の割合

【国別配分】

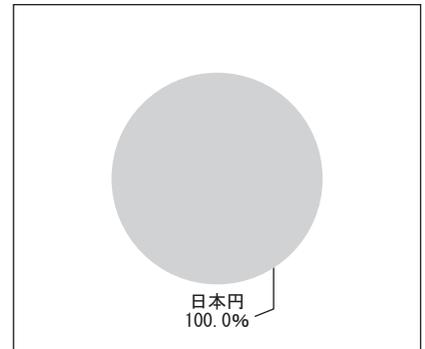
(2018年7月25日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【通貨別配分】

(2018年7月25日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【組入上位銘柄】

(2018年7月25日現在)

銘柄名	比率
1 6政保地方公共6年	14.5%
2 67 政保道路機構	8.7%
3 64 政保道路機構	7.1%
4 66 政保道路機構	4.7%
5 2 政保地方公共団	2.7%
6 77 政保道路機構	2.5%
7 304 北海道電力	2.3%
8 7 西日本旅客鉄道	2.3%
9 71 共同発行地方	2.3%
10 20-16 兵庫県公債	2.3%

(組入銘柄数 19銘柄)

*比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

※ 全銘柄に関する詳細な情報および直近の計算期間の運用経過等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。
※ 基準価額の推移、1万口当りの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。
※ 資産別配分、国別配分、通貨別配分、組入上位銘柄は組入ファンドの直近の計算期間末日のものです。



三井住友DSアセットマネジメント